

平成21・22年度のまちづくり情報特派員の皆さんを紹介します

まちづくり情報特派員は、町の広報広聴活動の推進を図るため、広報かいせいへの情報提供や記事の執筆をはじめ、町政モニターとしての役割も担っています。

現在活躍中の平成21・22年度のまちづくり情報特派員は次の5人の皆さんです。

企画政策課 ☎84-0312

- ① 特派員としての抱負
 - ② 開成町の好きどころ
- ※現在の特派員の任期は、平成23年3月31日までです。

鳥海 均 特派員 (代表幹事)



平成20年11月就任
① 町民の皆さんが知りたい情報や読んでよかったと思える記事を、足と目と耳を使って収集し、お知らせ

きたらと頑張っています。
② 開成町の新たな歴史は、今まさにつくられつつあるところに親しみと愛着が持てます。そんな発展途上の町に少しでもかかわれるところが大好きです。

前田 せつよ 特派員 (幹事)



平成17年4月就任
① いろいろな方々との出会いを広げる努力をしながら、たいせつに身近な話題を取り上げていきたい。

② 緑と水の豊かさに守られていて、どの場所を切り取っても絵になるところ。

絹谷 直子 特派員



平成21年4月就任
① 私は開成町で生まれ育ちました。特派員として、よりよいまちづくりをめざし、自分の興味のあることを通し情報発信できればと思います。
② なぜか帰ってくるとほっと安心できるところ。身近に田園風景、酒匂川があり、自然にふれあう場所があるのどかな環境が好きです。

長廣 安彦 特派員



平成21年4月就任
① 限られた紙面のなかで、読んだり見たりして役立つ記事で、適時努力している人や団体を紹介したいと思っています。
② 自然環境に恵まれた土地柄、交通の便も良く、日帰りで都会や、山、海に出かけられます。今後、高齢化社会になりますが、今の住みよい環境が続くことを期待します。

村上 啓夫 特派員



平成21年4月就任
① 転勤先の岩手県花巻市から故郷開成町に戻って来ました。町の発展・住みよいまちづくりに少しでも貢献できればと思います。特派員に応募しました。
② 小さな町だからこそできる町民と行政との融和がうまくマッチし、教育・文化交流に熱心であることと開発と自然保護のバランスがうまくとれているところ。

広報かいせいに記事を掲載

今月号からまちづくり情報特派員が自ら取材し、編集した記事「特派員レポート」の掲載が始まります。
また、平成22年2月号では、特派員特集を予定しています。

特派員レポートの掲載予定

掲載号	掲載特派員
11月号	前田特派員
12月号	長廣特派員
平成22年1月号	村上特派員
3月号	絹谷特派員
4月号	鳥海特派員

地域の方々に応援され、練習を重ね下島女性消防隊が全国大会へ

10月22日(木)に横浜市消防訓練センターで開催された第19回全国女性消防操法大会に神奈川県代表として下島女性消防隊が出場しました。

下島女性消防隊は、5月から全国大会に向けて、足柄消防組合、下島自治会、町消防団などに協力していただき、練習を重ねてきました。大会に向けた練習は、皆さんの協力なくしてはできないものでした。隊員でもある私が、地域の皆さんからどのような応援があったのかを紹介します。

まちづくり情報特派員 前田 せつよ



皆さんの協力により練習を重ねました

雨天でもかかさず練習

練習は、5月から8月までは週2日、9月からは、週3日のペースで行われました。天候により練習が中止になることはなく、猛暑や雨の日も行われました。土・日、祝日は、日中練習し、平日は、夜練習をしましたが、この練習には、足柄消防組合の指導員、下島自治会防災部、町消防団は欠けることなく参加し、支援してもらいました。

練習には多くの皆さんの支えがありました

下島自治会防災部には、毎回機材の運搬、設置をしてもらいました。大会本番では、ホース3本を次から次へと延ばして接続し、その先にある標的となる2つのビーチボールに放水し落とします。この標的は本番に近い形にと、手作りで準備されたそうです。

2つのビーチボールにそれぞれ2リットルの水を入れ、網袋に入れた状態で脚立上に高さを調整して設置されました。夜の練習では、白熱灯、投光機が用意され、練習場所をこうこうと照らしてもらい、安全に行うことができました。

町消防団の応援

町の消防団は、各分団が順番に駆けつけて、貯水槽に水を入れたり、ホース巻きをしたりしてくれました。練習は、ホースを延ばしては巻くことの繰り返しがあり、大会では迅速さと正確さが競われるため、出場選手は微妙

な巻き加減にこだわりができ、再び巻き直していただくことが何度もありました。また、練習場所やその近隣の方々には、困らんのひと時に、軽可搬ポンプのエンジン音や、号令が飛び交い、驚かされたこともあったと思います。消防団が、丁寧に説明して回り、理解と協力をお願いしてくれました。



練習では何度もホース巻きをしてもらいました

足柄消防組合の指導

足柄消防組合の指導員からは「自治会に思いがなければ、女性消防隊の存続は難しく、全国大会への練習も成り立ちませんよね。本当に皆さん頑張っておられます」と声をかけていただきました。指導員は、業務を終え駆けつけるわけですが、一睡もせ

ず指導にあたることが何回もあったと聞きました。消防長も何度も足を運ばれ、選手始め、分団や自治会に丁寧なお礼と熱い期待を寄せていられました。

感謝の気持ちを胸に大会本番へ

5か月にわたる練習は、ここには書ききれない数多くの皆さんの応援がありました。町長も幾度か足を運ばれ、激励の一言がよい緊張感を与えていました。母のように、姉のように、部活のマネージャーのように、定期便で激励してくださった方々。

影で支えてくださった方々が尊敬しあい、感謝しあうという、大きな輪の中に、選手が包まれていました。いろいろな光が飛び交い、その視線の先に、選手が照らされながら大会に臨んで行くようでした。選手の一員として、この場をお借りし、関係各位の皆様にお礼申し上げます。